

## 地域の特色を活かした野菜産地の育成

### 成果の要約

- 1 ばれいしょは、産地維持・強化に向けて推進体制案の作成や担い手農家2戸の課題解決が実践できた。また、土壌診断に基づく施肥改善を推進し、新規で31戸が取組んだ。さらに、機械化・省力化のアンケート結果を基に、掘取機の実演会が開催され、1戸が導入した。
- 2 豆類は、点滴チューブを用いたかん水の実証試験を行った結果、かん水の省力化や増収が図られ、点滴チューブ利用農家が増加した。
- 3 いちごは、個別カウンセリングと土壌診断結果に基づいた施肥対策支援等で、年内単収600kg/10a以上を10戸達成できた。また、単収は、5t/10a以上を9戸が達成できた。環境制御技術については、従来の生ガスよりランニングコストの低い灯油型装置の導入が図られた。
- 4 ミニトマトは、単収12t/10a以上農家が目標の4戸を達成し、うち1戸は15t/10a以上であった。また、今年度から全部会員を対象に個別提案会を開催し、前作の改善が図られた。さらに、環境制御研究会を設立し、活動したことで、環境制御技術導入が図られた。

### 1 対象

- (1) ばれいしょ重点対象農家 25 戸，JA鹿児島いずみ赤土ばれいしょ部会 743 戸，長島町田尻地区ばれいしょ農家 52 戸
- (2) 豆類重点対象農家 21 戸，JA鹿児島いずみ豆類部会員 431 戸
- (3) JA鹿児島いずみいちご部会 23 戸，個販農家 5 戸
- (4) JA鹿児島いずみミニトマト部会 35 戸，

### 2 課題を取り上げた理由

- (1) ばれいしょは、高齢化等による産地の弱体化が懸念されており、推進体制整備、担い手農家の経営安定、収益性低下の要因である土壌化学性の改善等、産地維持・強化に向けた取組が必要である。
- (2) 豆類は、県内有数の産地であるが、農業就業人口の減少や高齢化により面積が減少している。基本技術の徹底を図り、生産性を向上させることによる産地の維持が必要である。
- (3) いちごは、県内第2位の産地であるが、栽培面積・戸数ともに微減傾向にある。単収も 3.9t/10a と県内でもトップレベルであるが、更なる単収の向上を図る必要がある。

(4) ミニトマトは県内一の産地であるが、単収はここ数年伸び悩んでおり 8 t/10a 程度と低く、単価も近年大幅に下落している。そのため、単収向上による所得向上は急務の課題となっている。

### 3 活動の内容及び成果

- (1) ばれいしょ産地の維持・強化  
ア 産地強化推進体制検討  
推進体制整備に向け、長島地区のばれいしょに係る組織や体制等について情報収集・整理した結果をもとに関係者で検討した。長島町技連会農産・流通部会を産地強化に向け企画・立案する PT (プロジェクトチーム) 的な位置づけとし、協議内容をばれいしょ部会役員会で提案・実践していく体制案を作成できた。
- イ 担い手農家の経営安定  
対象農家 2 戸に対し、個別面談で経営状況や生産面での課題等整理し、土壌診断分析による施肥改善やパソコン簿記データ利用による経営分析の実施等支援した結果、目標とした改善課題が解決できた。

## ウ 生産技術改善

土壌診断による施肥改善に向け、町技連会で検討し、特に生育不良ほ場や未実施農家への診断啓発資料作成・町回覧での配布等実施し、栽培講習会、役員会等で土壌診断による施肥改善の必要性を啓発した。その結果、新規31戸を含む74戸から129ほ場の土壌が集まり、土壌診断結果をもとに処方箋を作成し、個別で施肥改善指導を行い、施肥改善が図られた。



写真1 栽培講習会での土壌診断推進

土壌のリン酸、カリ過剰対策として、減肥実証ほ場に取組むにあたり、経済連、土壌肥料専指を含め関係者で試験肥料3種類による実証に取組むことで検討し、早春作2か所、春作4か所に実証ほを設置した。

生産者の高齢化等への対応として、作業の省力化を検討するため、アンケートを実施し、345名の回答をもとに機械化の現状や課題把握等実施した。併せて、堆肥に関しても実態を把握した。結果を基に、機械化・省力化が望まれている収穫作業に関して、掘取機の実演会が開催され、1戸が導入する等機械化・省力加への意識が高まった。

## (2) 豆類産地の維持

### ア そらまめ・実えんどうの生産技術改善・普及

点滴かん水チューブ利用による収量向上試験や定点調査等を行い、栽培講習会や現地検討会で結果の紹介や適期管理指導を行った結果、目標単収を達成した。



写真2 栽培講習会での推進

令和2年作では、点滴チューブ利用かん水の更なる普及に向け、展示ほを設置したことで、点滴チューブ利用農家が増加した。かん水作業が楽になり、来年はさらに面積を増やしたいと高評価を得ている。



写真3 点滴チューブ設置の様子

また、そらまめでは、高収量が期待できる選抜品種を登録するための特性調査を現地で、個体選抜を阿久根市農林業振興センターで行った。



写真4 そらまめの個体選抜の様子

生産技術等の個別課題解決に向け、アンケートを実施した結果、土壌分析未実施者が多いこと、そらまめの摘花・摘莢が不十分であること等が把握できた。そのため、現地検討会で土壌診断や摘花・摘莢の必要性を説明した。

### (3) いちご農家の生産性向上と省力化技術の普及

#### ア モデル農家の育成

環境制御技術については、個別カウンセリングにより、補助金等を活用したランニングコストの低い灯油型装置の導入が図られた。

労力負担軽減対策支援については、現地検討会や講習会で、収穫時における腰痛の実態について、聞き取り調査を行い、収穫時の労働負担の状況が把握ができた。

#### イ 生産技術の改善・普及

コロナ対策のため、少人数(5地区)で講習会等を開催し、技術課題の整理及び土壌診断結果に基づいた施肥対策の支援を行った。

今年度は、「さがほのか」の定植苗不足が心配されたので、炭疽病検定を3回実施し、対策を徹底した。また、供給側の調査や産地同士で情報交換を行い、定植苗の確保に努めた。

新品種「恋みのり」の定着支援については、当品種の栽培者のみで検討会を開催し、既存品種と比較した栽培管理・病害虫対策を検討し、花芽分化が遅い、炭疽病は同程度、多肥栽培を好む、ハダニに弱い等の整理がなされた。



写真5 各栽培者が持ち寄ったの目揃え会

### (4) ミニトマト農家の経営安定

#### ア モデル経営体の育成

昨年に引き続き、ミニトマト基礎研修会を3回(草勢管理と環境制御技術、経営管理、難病害対策)実施した。併せて、同時期に今年度から新たに、全部会員を対象にした個別相談・提案会(前作の反省点検討、基肥設計、品種・定植時期検討、経営診断など)を開始した。その結果、前作の反省を基に今作の計画が立てられた。



写真6 ミニトマト基礎研修会の様子

#### イ 施設環境制御技術の確立、施肥・かん水技術の改善

国庫事業を活用して、「出水地域ミニトマト環境制御研究会(農家5名、関係機関・団体5名、メーカー1名)」を設立し、9月中旬から月2回、生育・土壌調査を実施するとともに、その結果とハウス内環境モニタリングデータを基に事後管理指導を実施した。また、現地検討会を2回開催し、会員の意見交換等を行った。その結果、研究会員の12月末時点の10a単収は部会平均の122~245%(うち4人は150%以上)で大幅に上回った。

部会全体の現地検討会を2回、研究会員ほ場で行い、研究会の活動事例や調査結果等を紹介したところ、補助事業を活用して新たに5戸の農家が日射比例かん水同時液肥+環境モニタリング装置を2戸の農家が炭酸ガス発生装置を導入した。

## 4 今後の課題

---

- (1) ばれいしょ産地の維持・強化
  - ア 産地強化に向けた推進体制整備
  - イ 担い手農家の経営安定
    - ・課題解決支援
  - ウ 生産技術改善
    - ・土壌化学性改善による生産性向上
    - ・減肥施肥の導入検討
    - ・県育成新品種の導入検討
- (2) 豆類産地の維持
  - ア そらまめ・実えんどうの生産技術改善・普及
    - ・点滴チューブ利用によるかん水の普及
    - ・そらまめ選抜品種登録に向けた活動
    - ・土壌分析・診断による施肥改善の推進
- (3) いちご農家の生産性向上と省力化技術の普及
  - ア モデル農家の育成
    - ・炭酸ガス施用の低コスト化
    - ・労力負担軽減のための腰痛対策
  - イ 生産技術の改善普及
    - ・苗不足対策のための優良親株の確保
    - ・萎黄病対策（土壌還元消毒）
- (4) ミニトマト農家の経営安定
  - ア モデル経営体の育成
    - ・安価な青枯れ病対策のための土壌消毒技術の確立
    - ・個別カウンセリングの実践・提案活動による個別課題解決実践支援